



探究的な学習研究推進通信

Fukutomi Inquiry Learning Team



令和3年
11月16日
(火)
No.7

○第3回研究推進協議会～岡先生、手島先生ありがとうございました。

11月4日(木)に、広島県義務教育指導課 小坂弘尚指導主事と東広島市教育委員会指導課 花岡拓也指導主事に来校していただき、第3回研究推進協議会を実施しました。今回の協議会では、第5、6学年のグループで研究授業を行っていただき、その後授業に対しての協議と、小坂指導主事に学習指導案や評価について、そして今後の取組をどのように進めたらよいか、お話をいただきました。

今回の研究授業は、福富小・中学校における「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業」初の研究授業であったため、学習指導案や評価規準など、決まった形がありませんでした。そんな中、授業者の岡先生と手島先生は、みんなの先陣を切って新しい形の学習指導案や評価規準を模索してくださいました。本当に大変だったと思います。ありがとうございました！

学習指導案は、今回作成していただいたものをベースに、他のグループでも作成していくことになります。「☆令和3年度探求的な学習(県指定)→☆学習指導案」の中に「☆学習指導案フォーマット」というファイルがありますので、コピーして使用してください。各グループとも1月中(※仮)に指導案を一つ「☆学習指導案」に入れておいてください。第5、6学年のグループは、協議後にバージョンアップしたものをよろしくお願いします。



○小坂指導主事より～今後の取組、今年度のゴールについてなど

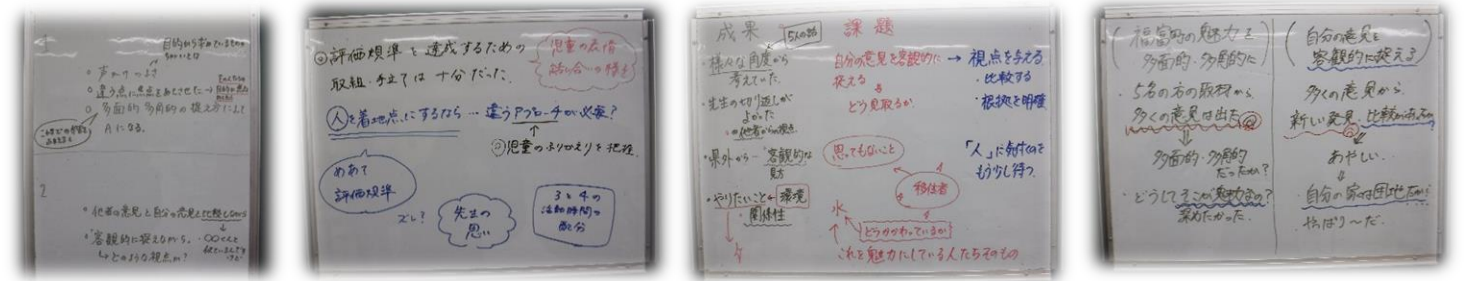
研究授業について 良い探究的な学習活動になっているかどうかは、子どもの姿を見れば分かります。上手くいっていれば、子どもは課題を自分ごととして捉え、生き生きと活動しています。今回の研究授業では、子ども達は多くの児童が挙手をして発言するなど、課題を自分ごととして捉えて生き生きと活動していました。先生方が夏休み前から、導入の方法を工夫・改善してこられた努力の成果だと思います。また、自由に意見交流ができる雰囲気は、日頃の学級経営で醸成されたもので、協働的な学びを行うために欠かせないものです。子ども達は探究的な学習・協働的な学びを行い、地域の方々へのインタビューを通して、課題に対して深く考えることができていました。

評価規準・ルーブリックについて 評価規準・ルーブリックがあることで、児童生徒を見る目を養うことができます。そして、その成果と課題を次の授業に生かすことができます。児童生徒がどのような姿を見ればA評価またはB評価なのか、具体的なイメージをもって評価規準・ルーブリックを作成しましょう。苦心して作成した評価規準・ルーブリックであっても、実際に授業を行ってみると「みんなが簡単にA評価に到達してしまっただけ。実はB評価だったのでは？」「抽象的すぎて見取りが難しい…」など当初の計画とズレが生じる場合があります。そういう時には、評価規準・ルーブリックが目標を達成するために妥当であったかどうか検討し、ブラッシュアップしていきましょう。

ゲストティーチャーの活用について 打ち合わせでどこまで詰めていくかがカギです。地域の講師の方がすべてを教え込まないよう、探究の余地を残す必要があります。講師の方と児童生徒に身に付けさせたい資質能力を端的に共有するとよいと思います。

今後の取組、今年度のゴールについて 次年度の全体計画を今年度中に作成します。※詳細は後日！

○これからの探究的な学習～協議内容をこれからの生かしましょう！



協議では、様々な意見が交わされました。授業参観シートに記載されていたコメントを下記に紹介します。それぞれのグループに生かせるものもあると思います。積極的に活用しましょう！

- ・先生方も児童も楽しそうに授業をされていて、それが何よりだと思いました。授業を参観させていただき、ありがとうございました。
- ・評価について、深く考えさせられる授業提案をしていただきました。ありがとうございました。
- ・児童が生き生きとしていて、自分ごととして捉えているなど感じました。めあてや目指す姿と教師側の思い(「人」に着目させたい)に整合性があるとより良くなるのではないかと思います。
- ・自分の意見を客観的に捉える際には、指導者から比較などの視点を与えることも必要なと思います。
- ・「福富の魅力って何だろう」の問いに、パッと児童から出させたい。そのため、振り返りの場面で調べて分かったことのネーミングを簡潔にしておくとうだろう。そしてグループトークを異なるグループで組むと、自分で調べたことに責任をもつことができ、共通点・相違点も話しやすいのではないかと。
- ・学習が進むと「人」に着目できると思ったので、振り返りやつぶやきを大切にしていけるとよいのでは。

これからの予定

○冬季休業中 3日間終日
ドリームマップ理論研修 FITのみ

1・2年生 自分の知りたい課題を考え、探検に行きました。その報告会をした後、青組さんへ教えたい内容について考えていきます。

3・4年生 福富の自然をどうやって守っていくかを考えました。グループに分かれて計画を立てたり、自分たちにできることを話し合ったりしています。

5・6年生 地域の方からのお話も参考にしながら、自分たちが感じる福富町の魅力についてさらに深め、その魅力を伝える動画を作成します。

中1・2年生 地域の方にご協力いただき、体験や見学等を行いました。発表会に向けて、収集した“魅力”情報をまとめています。

中3年生 福富のよりよい未来に向けて、一人ずつ仮説を立て、検証方法を考えています。事業所視察やアンケート実施などを計画しています。



先達の言葉

他人任せでは物事は好転しない。
「誰かが」ではなく、「まず自分が」
という生き方を心がけたい。

松下幸之助(松下電器創業者)

今回はお二人の先生方のご尽力により、この研究において、どのように授業を組み立てていけばよいか道筋を示していただきました。新しい道では上手くいかないことも多いです。ですが記録に残し、次に生かせばそれは成長へのワンステップになります。各自積極的に挑戦していきましょう！